

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 上里町

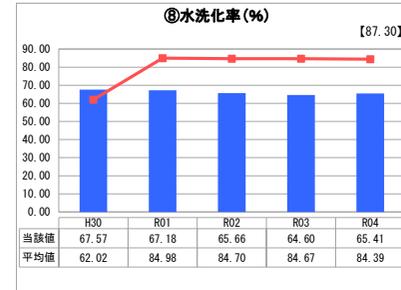
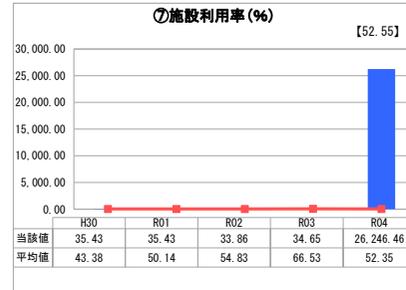
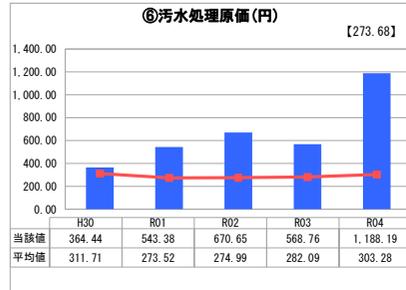
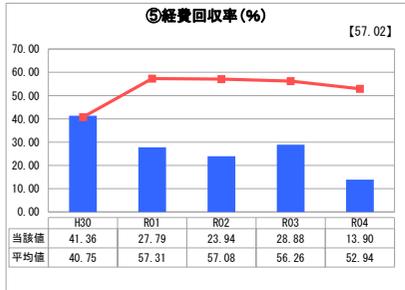
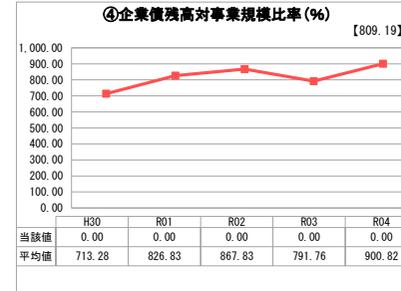
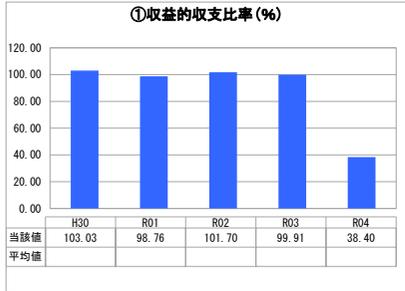
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.87	100.00	3,360

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,554	29.18	1,047.09
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
266	0.12	2,216.67

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
使用料や繰入金等の総収益で、維持管理費に企業債元利償還金を加えた費用との程度を測っているかを表す指標であり、公営企業化に係る委託料の発生により前年比大幅に減少しているが、収益的支出に充てた企業債を考慮した実質収支は黒字となっている。また今後、健全な運営に向け使用料の改定も検討していく予定である。

②累積欠損金比率  
一般会計からの負担以外の地方債残高はないため、比率として表れていない。

③流動比率  
経費を費用でどの程度賄えているかを示す指標であり、公営企業化に係る委託料の発生により低い水準となっている。今後、老朽化に伴う維持修繕のための経費計上も見込まれるため、経費の効率化及び適正な使用料収入の検討が求められる。

④企業債残高対事業規模比率  
汚水処理に係るコストを示す指標であり、公営企業化に係る委託料の発生により、前年比大きく増加している。他団体と比較してもかなり大きな値であり、経費の効率化及び適正な使用料収入の検討が求められる。

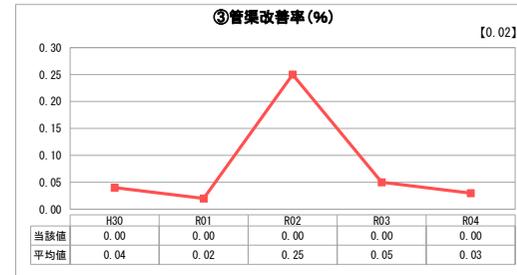
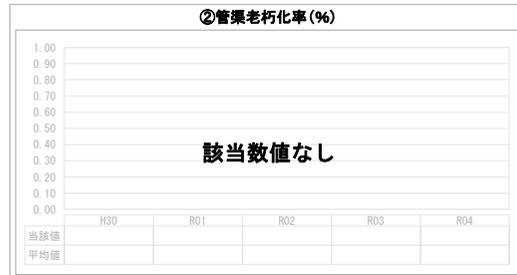
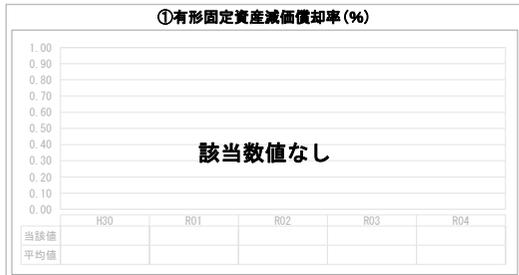
⑤経費回収率  
施設・設備が1日に対応可能な処理能力に対する1日平均処理水量の割合を示す指標で、平均値より低い水準で推移している。利用率向上のため地域住民への推進を今後進めていく必要がある。

⑥汚水処理原価  
現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標であり、処理区域内人口・利用者の転居等により微かに変動する。水洗化率向上は収益の増加へ結び付くため、健全な経営に向け地域住民への施設利用の啓発・推進活動へ一層取り組んでいく。

### 2. 老朽化の状況について

③管渠改善率  
当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標で、管渠の更新のペースや状況を把握する。本町の農業集落排水事業は、H16年に供用開始し、現状更新が必要な管渠がないため更新は行っておらず、0%となっている。今後の老朽化や修繕の需要に備え、投資計画を事前に立てていくことが必要であると考える。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

経営について、使用料収入は安定しているが、費用を随分おらず、一般会計からの負担も高い状況である。R6年度より公営企業化するにあたり、R4年及R5年に公営企業会計移行業務委託に係る費用が一時的に発生する。収益的収支等の数値に影響があるが、収益的支出に充てた企業債を考慮した実質収支は黒字となっているため経営に大きな問題はないと思われる。しかし、使用料の適正化の検討及び維持管理における経費の見直し等、経営改善は今後も引き続き行っていく必要がある。

また、より収益性を向上させるためには、水洗化率の向上が必要であり、健全な事業運営へ向け、地域住民に対し啓発・推進を継続的にやっていくことが必要である。

将来に発生する施設の老朽化などの問題については、現在は法定耐用年数内であるが、将来を見越した総合的な計画に沿った事業運営が今後必要となる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。